

日本農業気象学会 2011 年度第 1 回理事会議事録

日時：2011 年 3 月 18 日（金）12:00～12:50

場所：鹿児島大学農学部共通棟 301 室

出席者：大政，小林，青木，菅谷，林（真），廣田，町村，小沢，五十嵐，北野，松岡，黒瀬，
平野

欠席者：岡田、林（陽）、富士原、松島、中屋、皆巳、佐々木、菅野、横山、吉本

【議事録確認】

省略

【報告・連絡事項】

1. 学会賞賞牌

五十嵐理事より，学会賞賞牌の作成に関して 2010 年度の予算執行の内容について報告があった。松岡理事より，賞牌の残数は 2 であることが報告された。

2. その他

1) 全国大会の状況について

北野大会実行委員長より，大会参加者は申込者の約 8 割であったとの報告があった。また，参加費の返金については，大会実行委員会の方針にまかせていただきたいとの提案があり，認められた。

2) 韓国との連携について

小林副会長より，前日（3 月 17 日）に行われた韓国農林気象学会との会談の内容について報告された。主に日韓共同での国際誌発行に関して議論した。とりあえず，来年度の国際シンポジウム（ISAM2012，大阪府立大）での共同企画について議論を進めたい。日韓の窓口は，小林，宮田，Byong-Lyol Lee（WMO CAgM 議長，韓国農業気象センター所長），Joon Kim（韓国農林気象学会編集委員長）の 4 名である。

3) 法人化について

五十嵐会計理事より，監査から財産（基金，事業準備金）の多さについて口頭で指摘されたとの報告があった。場合によっては，財産に対して課税される可能性があるとのことである。議論した結果，次回の理事会で法人化について検討してはどうかとの意見があった。

【審議事項】

会長および役職理事の多くが欠席したため，議決等を行わず，意見交換を行った。

1. 役割分担の決定

今期の編集理事（出版正），編集理事（出版副）の任期は，2 年と 4 年である。

2. 特別委員会の設置

1) 終了もしくは終了見込みの確認

- ・学会賞審査体制に関する検討：すでに検討が終わったので必要ない。
- ・学会のあり方：法人化など、検討すべき課題が出てくる可能性があるので残すことが望ましい。
- ・企画講演：70周年に関連した事業を行う可能性があるため、その事業について検討する委員会として存続させるのが望ましい。その場合、企画委員会の名称が良いかもしれない。

2) 新設・存続について

- ・日中韓連携・WMO 対応：小林副会長が対応するが、特別委員会を設置する必要はないと思われる。
- ・温暖化フォーラムと測定法講座：担当者を交換することも可。

3. その他

- ・予算に少し余裕があるので、事務作業の負担軽減（外注化）を検討してはどうか（大政理事）。
- ・「教育」に関するアンケートなどに対応しなければならないことがある（松岡理事）。担当者を決めた方が良いのでは？場合によっては、積極的に教育担当理事を設けてはどうか。
- ・地震による被災の農業影響に関して、学会として対応すべきである。農業気象リスクマネジメント研究会は早急に対応する予定であり、理事会に情報提供する予定である（松岡理事）。
- ・次回の温暖化フォーラムを北海道で行うことが可能である（廣田理事）。関係部局（北海道庁など）と協議したい。
- ・「2010 年度の高温暖」について、学会として出版物を出すことを考えたかどうか。「生物と気象」への投稿なども含めて、次回理事会で提案したい（小沢理事）。